

生きづらさを共 に生きる

- ・ 幼稚園長としての経験から
見えてきたことー
- ・ 梶山女学園大学外国語学部
附属幼稚園長
- ・ 堀田あけみ



外国語学部から なぜ園長に

自閉スペクトラム（知的障害あり）の次男を含む2男1女が卒園児。

現在担当しているのは国語・日本語関係だが、心理学者としての専門は幼児の言語発達

発達に関する悩みを抱える親のパターン

- ・困っているので相談する

- ・困っているが、それが相談するほどのものかわからない

- ・相談したほうがいいかもしないけれど、踏ん切りがつかない

- ・困っているが実感が希薄

- ・周囲は困っているが、当事者には実感がない

- ・困っている理由は普通に性格が悪いせいだと思っている

教育現場のアップデート

ジェンダー

障害

ハラスメント

働き方改革

入試のあり方

教員の側はで きているのか

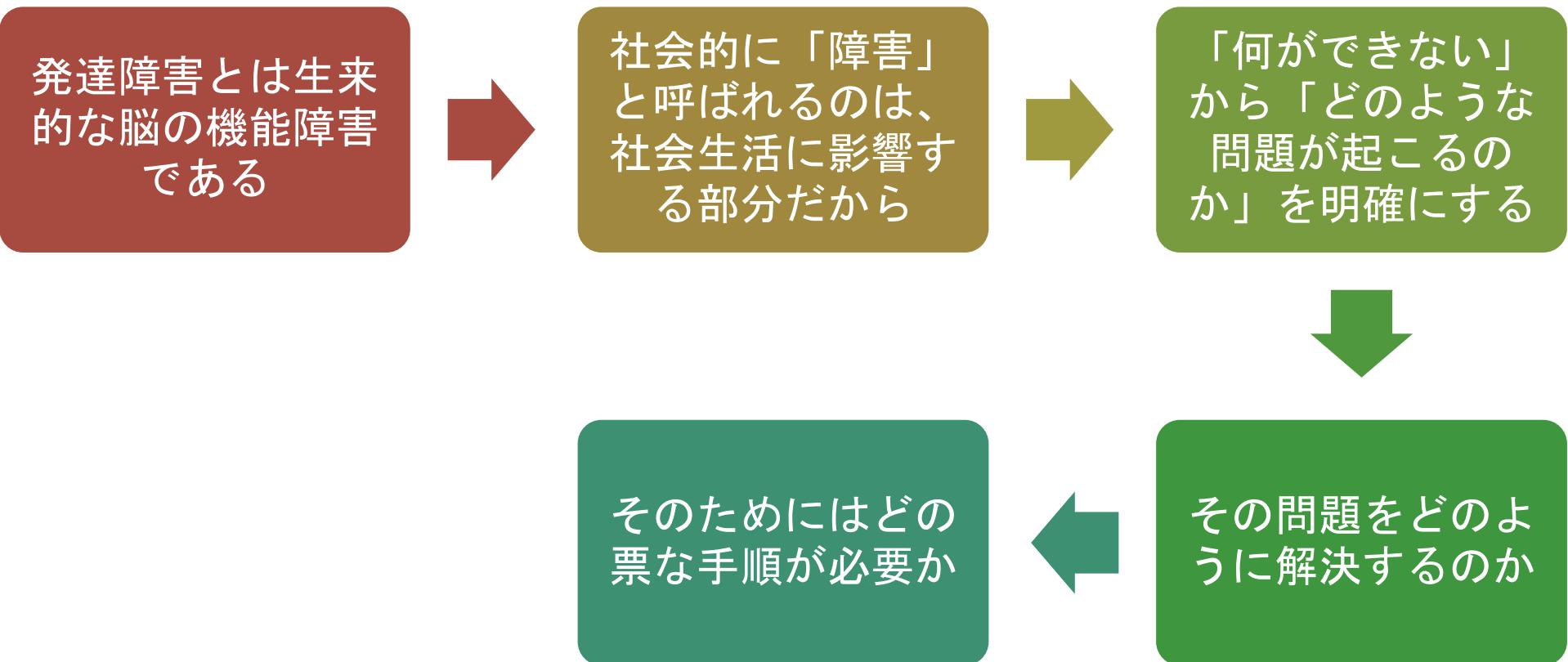
旧来の性役
割を求める

できないこ
とを根性だ
けで処理す
る

親の育て方
に言及する

障害がある
のは悪いこ
とだと思っ
ている

原点に戻る



子どもの視点をとってみる

物理的に変える
だけでも全然違
う

子どもの発想は
なんだろう

感じ方の違いを
考える

診断名がつくとはどういうことか



こういう子は
一定数いる



服薬を含めた
対処法がある

問題の源は

障害である

→

誰も悪くない

自分だけの問題ではない

改善の手立てがある

障害ではない

→

本人の性格が悪い

親の育て方が悪い

非常に個人的な問題である

改善は難しい

その辛さは誰もの？

本人も周囲も辛い

本人は辛いが周囲は辛くない

周囲は困るが本人はハッピー

本人も周囲もハッピー（問題があっても）

寄り添う 「勇気」を 持つ

同じ視点で同じものを見てみる努力

自分の辛さを子どもに転嫁しない

何が子どもを楽にするかを考える

自分の気持ちはとりあえず置いておく

「良かれと思って」「将来のため」は棚に上げる

ご清聴ありがとうございました